

チーム 新・湯治

新・湯治コンテンツモデル調査

公 募 要 領

令和4年5月

環 境 省

(業務委託先 公益財団法人日本交通公社)

目 次

1. 新・湯治コンテンツモデル調査の概要	1
1-1 モデル調査の目的	1
1-2 調査内容.....	2
(1) 調査の流れ	2
(2) 募集内容.....	2
(3) 調査応募資格.....	6
(4) 採択するモデル実証温泉地数.....	6
(5) モデル調査への支援及び実施にかかる経費について	7
2.申請方法及びモデル調査の選定について	8
2-1 申請方法.....	8
(1) 申請にかかる書類	8
(2) 募集期間.....	8
(3) 応募書類の提出先・問い合わせ先	8
2-2 モデル実証温泉地の選定方法	9
(1) 選定方法.....	9
(2) 選定後の留意点	9

1. 新・湯治コンテンツモデル調査の概要

1-1 モデル調査の目的

自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に向けた提言を踏まえ、環境省では温泉地活性化のために「新・湯治」を推進しています。多くの人が温泉地で地域資源を楽しみ、滞在を通じて心身をリフレッシュさせる。そして、温泉地に多くの人が訪れることで、温泉地のにぎわいを生み出していく。このような「新・湯治」の目指す温泉地の姿を実現するためには、**多様な関係者の連携**が必要不可欠です。

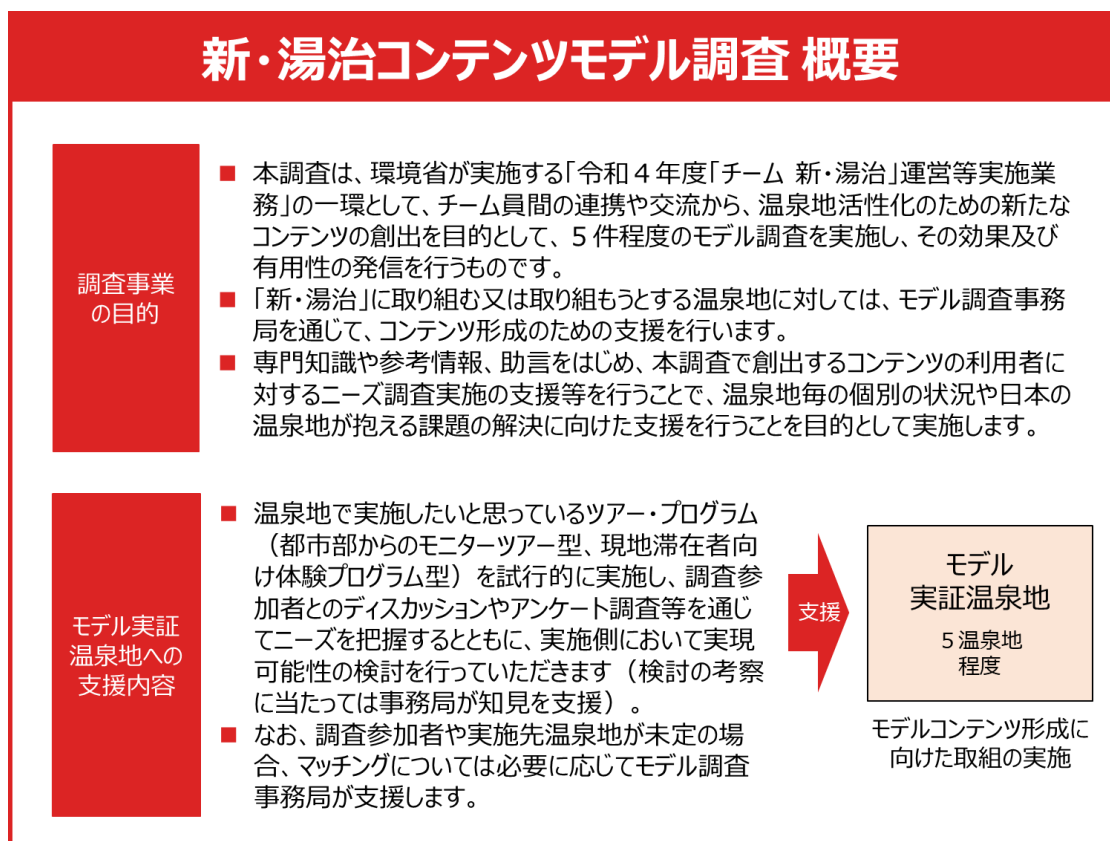
「チーム 新・湯治」は、温泉地を中心とした自治体、団体、企業等による多様なネットワークづくりを目指した取組です。本ネットワークを通じて、温泉地において多種多様な連携が生まれ、これまでになかった新しい取組が展開されることが期待されています。

本調査は、環境省が実施する「令和4年度「チーム 新・湯治」運営等実施業務」の一環として、チーム員間の連携や交流から、温泉地活性化のための新たなコンテンツの創出を目的として、5件程度のモデル調査を実施し、その効果及び有用性の発信を行うものです。

「新・湯治」に取り組む又は取り組もうとする温泉地に対しては、事務局を通じて、コンテンツ形成のための支援を行います。専門知識や参考情報、助言をはじめ、本調査で創出するコンテンツの利用者に対するニーズ調査実施の支援等を行うことで、温泉地毎の個別の状況や日本の温泉地が抱える課題の解決に向けた支援を行うことを目的として実施します（図表1）。**なお、本事業は補助金ではありません。**

なお、本調査事業の実施にあたっては、公益財団法人日本交通公社が、環境省から委託を受けて新・湯治コンテンツモデル調査事務局（以下、モデル調査事務局）業務を担当します。

図表1 本モデル調査事業の目的と支援内容



1-2 調査事業内容

(1) 調査事業の流れ

想定する事業の流れは、下記の通りです（詳細は、図表2を参照）。

図表2 本事業の流れ

実施スケジュール	内容
令和4年5月24日～6月30日	モデル調査の募集
令和4年7月中下旬	モデル調査の選定
採択後～令和5年1月	申請書及び実施計画書に基づく取組・調査の実施 ※新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら実施
令和5年2月	実施報告・共有化

①モデル調査の募集・選定

- ・申請書（別添様式1）および実施計画書（別添様式2）を作成し、提出いただきます。
- ・提出された実施計画書の内容を環境省とモデル調査事務局にて審査し、必要に応じ外部有識者の意見を聴取し、モデル調査を選定します。

②実施計画に基づく取組実施

- ・選定された各モデル調査実施者において、作成した実施計画書の内容に基づき調査を実施します。
- ・想定するモデル調査事務局とモデル調査実施者の役割分担は、図表3の通りです。

③実施報告・共有化

- ・調査の実施終了後、実施報告書を提出いただきます。報告書で整理いただきたい項目については、採択後にモデル調査事務局より連絡します。
- ・本調査で取り組んだ事業内容については、全国の温泉地、「チーム新・湯治」チーム員に対して報告し、成果を共有することを想定しています（必要に応じ匿名化します）。

(2) 募集内容

温泉地で実施したいと考える新・湯治のコンセプトに沿ったコンテンツをモデル的に実証し、利用者から課題、改良点やニーズ等を把握するための調査を募集します。本調査は温泉地側及び温泉地外（温泉地外の企業など）のどちらの視点からでも応募可能です。

①調査のテーマ

- ・新・湯治コンテンツモデル調査は温泉地との新しい「連携」がテーマです。
- ・具体的な連携内容を、自温泉地の特徴や強み、獲得したい客層、市場に認知されたいテーマなどを踏まえ、「温泉地×〇〇」の形式で申請者において設定してください。
- ・文字数、ひらがな・カタカナ・漢字等の制限は特にはありません。また、内容を表現するにあたり、必要に応じて「温泉地×〇〇×〇〇」と表現しても構いませんが、「〇〇」までは2つまでとしてください。テーマは「分野」、「対象者」など調査内容を端的に表現するものとしてください。
- ・モデル事業として実施するため、他の温泉地での展開可能性も考慮してください。

(募集テーマの例)

例) 温泉地×若者	温泉地×温泉地	
温泉地×インバウンド	温泉地×定住促進	
温泉地×ユニバーサルツーリズム	温泉地×3日間滞在	
温泉地×〇〇企業	温泉地×温泉熱	
温泉地×健康食×美容	温泉地×テレワーク	
温泉地×スポーツ	温泉地×福利厚生	など

※上記はあくまで例です。新・湯治のコンセプトに沿った
新たなコンテンツとして相応しいテーマの設定を期待しています。

(参考) これまでの新・湯治コンテンツモデル調査の採択テーマ(8件)

○温泉地×温熱×リラックス	[湯村温泉]	実施者: 新温泉町
○温泉地×身近なマイノリティ	[東鳴子温泉]	実施者: 鳴子ワカモノ湯治
○温泉地×Business Woman & オープンイノベーション	[伊豆修善寺温泉]	実施者: 株式会社ベーシック
○温泉地×転地療法×地域食材	[関金温泉]	実施者: 関金温泉振興組合
○温泉地×ワーケーション×リフレッシュチャージ	[松之山温泉]	実施者: 松之山温泉合同会社まんま
○温泉地×ワーケーション入門×自然との共生	[土湯温泉]	実施者: NPO 法人土湯温泉観光協会
○温泉地×東洋医学(中医学)×美肌	[法師温泉]	実施者: 株式会社温泉ビューティ研究所
○温泉地×学生×居場所づくり	[東鳴子温泉]	実施者: 鳴子ワカモノ湯治

温泉地×温熱×リラックス〔湯村温泉〕 実施者：新温泉町〔おんせん天国堂〕

- 湯村温泉（兵庫県）では、「身体を温める」をコンセプトに、高温で豊富な温泉と温泉熱で温められた川沿い空間を活用した体験プログラムを、健康事業を大阪府、兵庫県内で行う企業5-R E L A X（ゴリラックス）*1と連携して企画。京阪神の都市住民に体験してもらい、そのニーズ等を把握しました。
- 11月11-12日の二日間にわたって、身体を温めるための運動、食事、体験などのプログラムを提供。5-R E L A X 指導のコンディショニング（温熱リラックスと朝アクティブ）で身体の調子を整えました。



湯村温泉の水辺の風景（昼間）



春來川の河川敷でお尻に温泉熱を感じながらコンディショニング（夜間）

- また、ワークショップを行い、日々のボディケアの重要性と取組方を学ぶとともに、宿泊先の協力のもと、「身体に優しい」創作会席と朝食を提供するプランも体験しました。
- 参加者からは、「フィットネスなどで行っているヨガでは味わえない、自然の中で、さらに温熱を利用することで味わえる爽快感は格別」「湯村ならではの体験ができた」などの高評価をいただいた一方、コンディショニング等に関する事前の情報提供不足や、河川敷の環境を活かすための装具の改善など、課題も明らかとなりました。

*1トレーナー派遣やフィジカル・コーチとメディカル・スタッフによる会員制ジムの運営など、アスリートに対するコンディション調整やトレーニング、メディカルチェックなどを行う企業。

温泉地×身近なマイノリティ〔東鳴子温泉〕 実施者：鳴子ワカモノ湯治*2



湯治ウィークに配布されたチラシ

*2鳴子ワカモノ湯治は、東大温泉サークルOKRが実施する複数あるプロジェクト（チーム）の一つ。

- 東鳴子温泉（宮城県）では、11軒ある温泉旅館のうち6軒で宿泊者は無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度があります。
- 他の温泉地にはないこの特色を活かして、温泉に“入りづらさ”を感じている身近なマイノリティ（性的マイノリティ、乳がん手術経験者等）の方が、日々の行きづらさを忘れて心身の休養・保養ができる環境づくりを「ひとにやさしい温泉地プロジェクト」として進めています。
- 地元温泉地のほか、性的マイノリティの当事者と支援者の団体「東京大学TOPIA」の協力を得ています。性的マイノリティの温泉利用に関する調査では、周囲の視線などから、日頃多くの方が温泉の利用にあたって課題を抱えているという結果が得られ、乳がんの患者コミュニティからも、温泉旅行を諦めていた人も多いという話を伺いました。
- 「湯治ウィーク」（9月23-29日）中に、6軒の旅館の宿泊者に対して貸切風呂の感想やプロジェクトへの意見をアンケート調査した結果、一般宿泊者42名から回答を得て、多くの方からプロジェクトに対する賛同、理解を得ました。一方でマイノリティ当事者の方への調査は難しく、別途モニター調査を実施しています。
- 実際に現地を来訪した当事者の方々はコンセプトに賛同する一方で、案内を充実させてほしいなどの意見が聞かれました。

温泉地×Business Woman &オープンイノベーション

〔伊豆修善寺温泉〕 実施者：株式会社ベーシック

- 温泉地という、心も体も開放的になるリフレッシュできる環境の中で、さまざまな企業の業種・部門の、Business Womanたちが集い、温泉や自然と楽しみ、交流することで、思考の枠組みを外す、オープンイノベーションミーティングの実証を伊豆修善寺温泉で行いました。
- 株式会社ベーシック（企画・プログラム構築・運営支援）と、伊豆マリオートホテル修善寺（泊食・アクティビティ等プログラム協力）、プレジデント社「PRESIDENT WOMAN」（取材・集客協力）が連携して、12月14-15日の二日間にわたる「温泉地ミーティング」を開催。



各チームからの発表の様子（伊豆マリオートホテル修善寺にて）



参加者より出された意見等

- 10名の女性リーダー（BusinessWoman）が、温泉地ならではの自然、温泉によるリフレッシュ効果、独特の開放感、リラックス、新鮮な食という恵まれた環境の中でリフレッシュしながら、オープンイノベーション（情報交換し、互いに向上を目指す）を目的としたディスカッションや、アクティビティ&リフレッシュプログラムなどを実践しました。
- 参加者からは、職場や自宅を離れ、温泉地という恵まれた環境で実施するため、脳がリフレッシュされ仕事モードから切り替えでき、さらに、企業の垣根を超えて女性リーダーがディスカッション&合宿することで、女性活躍推進の意欲向上にも繋がるという意見があげられました。

（チーム新・湯治 NEWS LETTER No.5 より）

温泉地×転地療法×地域食材 [関金温泉] 実施者: 関金温泉振興組合

- 鳥取県倉吉市にある国民保養温泉地「関金温泉」では、令和2年6月に新たに発足した関金温泉振興組合と、地域団体、倉吉市商工観光課が連携して、「関金温泉健康づくりプログラム検討会」を立ち上げ、「健康に資する温泉地」としての活性化を目指して活動しています。
- 健康増進につながる新しい湯治のスタイルとして、運動、食事、癒し、温泉の4つ体験で構成する「関金温泉ウエルネス体験」ツアーを造成し、モデル調査を2回実施しました。調査後には、改良したツアーを実際に販売するなど、実走しながら進めています。参加者等からは、一つひとつの体験は評価されましたが、それらを関連づけるストーリーの必要性や体験内容と移動とのバランス等について意見がありました。今後も団体間で情報共有し、引き続き改善しながら進めていきます。



(チーム新・湯治 NEWS LETTER No.11 より)

温泉地×ワーケーション×リフレッシュチャージ [松之山温泉] 実施者: 松之山温泉合同会社まんま

- 松之山温泉合同会社まんま(新潟県十日町市)は、地域のエネルギーである温泉熱を活用した発電事業を協働して行う株式会社地熱開発が傘下にあるGPSSグループを対象に令和2年11月にモニターツアーを実施しました。
- 継続的な関係が見込まれるとともに、コロナ禍にあっても来訪が見込まれる企業及びそのグループ会社の方にワーケーションとして温泉地に来訪してもらい、リフレッシュチャージしてもらうことで、温泉地の賑わい創出を図ろうとしました。
- 二日間のツアーの中では、越後妻有大蔵寺高原キャンプ場やまつのやま学園でのテレワークの可能性を探るために、コーディネーターから同学園の取組や雪里留学(短期留学制度)、ガイド(同学園アウトドア部外部講師)からキャンプ場でのアクティビティ等について説明させていただく場を設け、意見交換を実施。ファミリーでの滞在に向けては、移動、滞在場所、短期留学の3つにかかる手続きをワンストップで行える仕組みがあればという意見などが出ました。
- 発電所事業とともに、視察を含めた松之山フィールドを体験する商品などを提供できるようにしていきたいと思います。



コミュニティ発電 ザ・松之山温泉

(チーム新・湯治 NEWS LETTER No.10 より)

②モデル調査の類型

モデル調査の公募区分は、大きく2つです。原則としていずれかを選択してください。

A. 都市部からのモニターツアー型

＊都市部の企業や一般消費者等に向けて、旅行期間中の過ごし方等を提案、実施します。

B. 現地滞在者向け体験プログラム型

＊現地で滞在者している方、現地を訪問する方に対して、数時間～半日程度のプログラムを提案、実施します。

③支援内容の例

温泉地で実施したいと思っているツアー・プログラム（A. 都市部からのモニターツアー型、B. 現地滞在者向け体験プログラム型）を試行的に実施し、参加者とのディスカッションやアンケート調査等を通じてニーズを把握すると共に、実施側において実現可能性の検討を行っていただきます（検討の考察に当たってはモデル調査事務局が知見を支援）。なお、調査参加者や実施先温泉地が未定の場合、マッチングについては必要に応じてモデル調査事務局が支援します。

④本調査で環境省が負担する経費

本調査で環境省が負担する経費は、次の2つです。

●調査参加者への協力謝金

A. 都市部からのモニターツアー型

ニーズ把握調査に対する協力謝金（17,700 円/人、各調査最大 15 名）

B. 現地滞在者向け体験プログラム型

アンケート等への回答など、ニーズ把握調査に対する協力謝金（2,000 円/人、各調査最大 30 名。ただし、一人あたりの回答内容が 400 文字程度ものとする。）

なお、調査参加者への謝金の支払いは、同額のデジタルギフトとする場合があります。

●外部有識者派遣にかかる旅費、謝金

コンテンツの検証等のため、外部有識者をモデル調査先へ派遣することも可能です（その場合、派遣にかかる旅費、謝金を環境省が負担。1 件当たり 1 回程度、1 泊 2 日程度を上限）。その際は旅費法に従って旅費を支給するとともに、謝金として 1 回当たり 17,700 円（1 件につき 1 回を上限）を支払います。

(3) 調査応募資格

- ・本事業に申請できる者は「チーム新・湯治」のチーム員に申請日までに登録されている団体です。なお、個人による申請は対象外とさせていただきます。

(4) 採択するモデル調査数

- ・合計で 5 件程度の選定、採択を予定しています。
- ・1 チーム員から複数の案件の応募は可能ですが、採択は、原則として 1 チーム員あたり 1 件とします。

(5) モデル調査への支援及び実施にかかる経費について

- ・モデル調査事務局を経由して環境省が負担する経費は1-2(2)④のとおりです。
- ・モデル調査事務局の人件費及び現地往訪にかかる旅費等、事務局が負担します。
- ・それ以外の費用については、原則モデル調査実施者で負担となりますが、各モデル調査実施者の準備状況に応じ、協議の上決定します。

図表3 調査の流れと役割分担

	モデル調査実施者	モデル調査事務局 (公財) 日本交通公社	環境省	提出・報告
モデル調査の募集・選定 (令和4年5月中旬～7月中下旬)	モデル調査実施計画書作成 必要に応じてモデル調査事務局よりヒアリングを実施	モデル調査 公募 受理 審査 モデル調査決定 通知		・申請書 ・実施計画書
申請書及び実施計画書に基づく調査の実施 (採択後～令和5年1月) ※新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、実施(モデル調査事務局と協議)	打合せ(開始時) 実施計画に基づき調査を実施 打合せ(中間) 実施計画に基づき調査を実施 打合せ(必要に応じて)	モデル調査事務局による調査支援 モデル調査事務局による調査支援/連絡		・中間報告
実施報告・共有化 (令和5年2月)	調査のとりまとめ(実施報告書)	受理 確認		・実施報告書

2.申請方法及びモデル調査の選定について

2-1 申請方法

(1) 申請にかかる書類

- ・応募書類（申請書および実施計画書）の様式は、環境省「チーム新・湯治」のホームページ及びモデル調査事務局のホームページからダウンロードできます。

<https://www.jtb.or.jp/shintouji2022-1/>

- ・必要事項を記入し、応募期間内にモデル調査事務局（下記）まで提出してください。
- ・計画書に詳細を記載するよりも添付資料を参照した方がわかりやすい事項については、提案書中に「△については、別添資料○参照」と記載して、資料添付を行うことも可能です。ただし、添付資料が大部にわたる場合は、必ずその要点を提案書中に記載すること。また、計画書記載事項との関係が容易に分かり難い添付資料は、添付されなかったとみなすことがあります。

(2) 募集期間

- ・令和4年5月24日（火）～6月30日（木）12:00 必着

(3) 応募書類の提出先・問い合わせ先

- ・応募書類の提出は、下記事務局まで原則メールにてお願いいたします。

【提出先・問い合わせ先】

新・湯治モデルコンテンツ調査事務局

公益財団法人日本交通公社 チーム新・湯治係（後藤・守屋・磯貝・安谷）

（令和4年度「チーム 新・湯治」運営等実施業務受託事業者）

〒107-0062 東京都港区南青山 2-7-29 日本交通公社ビル

TEL：03-5770-8440 FAX：03-5770-8359 E-mail：shintouji@jtb.or.jp

2-2 モデル実証温泉地の選定方法

(1) 選定方法

- ・下記の基準に基づき、総合的に審査し選定します。なお、選定に当たっては、必要に応じて事務局よりヒアリングを行う場合があります。

(選定基準)

- ・応募資格を満たしていること
- ・モデル調査として応募目的が明確であること
- ・モデル調査の内容が実現可能なものであること
- ・モデル調査の成果が他の温泉地及びチーム員にとって参考になる取組であること
- ・モデル調査を確実に実施できる体制・スケジュールであること

(2) 選定後の留意点

- ・調査実施期間中に、調査実施者と発注者等による打合せを2～3回開催させていただきます(開始時、中間、事業終了時(必要に応じて))。
- ・各モデル実証温泉地の調査の進捗状況を確認するとともに、取組期間の過半を過ぎた時期(10月前後を想定)に、中間報告をいただきます(報告の方法は別途連絡)。
- ・取組実施後に、実施報告書(様式は別途提供)を提出していただきます。

(実施報告書の内容案)

- ・実施した取組の内容
 - ・調査によって得られた成果
 - ・今後の課題 等
- ・上記以外にも、取組状況については各種セミナーなどの機会に適宜報告をお願いすることがあります。

環境省が取り組む温泉地活性化の方針（有識者会議提言）

新・湯治

- 温泉** .. 国民共有の資源であり、温泉地の核となり、将来世代へ引き継ぐもの
日本は温泉や温泉地が持つチカラを十分に活用していないのではないか

古くからの
温泉地に長期滞在し、入
浴して病気を治療する
「湯治」

団体旅行としての温泉地
の発展
療養や保養の場としての
衰退

- ストレス社会、高齢化社会であり、ワークライフバランスが求められる現代において、社会全体として、リフレッシュや健康長寿のための場づくり、仕組みづくりが重要
□ 官民一体となって地方創生、観光立国（インバウンド対策）を推進

新・湯治
とは

エビデンスも重視！

温泉地の役割を見直し、「新・湯治」を提案

- 温泉入浴に加えて、周辺の自然、歴史・文化、食などを活かした多様なプログラムを楽しみ、地域の人や他の訪問者とふれあい、心身ともに元気になること
- 年代、国籍を問わず楽しめる
- 長期滞在を行うことが効果的

3

「新・湯治推進プラン」の内容

新・湯治

新・湯治推進プラン

- .. 「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めることをまとめたもの

楽しく、元気になるプログラムの提供

- 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- 多様な温泉地間の連携による情報発信等
- 年代、国籍を問わず、長期滞在しやすい宿泊プランづくり

温泉地の環境づくり

- 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用
- 温泉地を拠点とした広域周遊、国立公園満喫プロジェクトとの連携

「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- 温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信
- 統一フォーマットの提示により、全国的なデータの蓄積、評価、公開
- ストレス社会、健康長寿社会における重要性を踏まえた準備

推進体制
の構築等

- 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保
- 地域外の民間企業等との連携
- 関係省庁の連携

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

4

環境省 御中

(業務委託先 公益財団法人日本交通公社)

新・湯治コンテンツモデル調査 申請書

モデル調査	テーマ	温泉地 × (リフレッシュ)	
	実証温泉地名 (所在地) ※未定の場合は 「未定」と記入	未定 (例 1) b (例 2)	温泉 (b 県(例 2) 都道府県)
申請者	チーム員名	例 1 : 株式会社 A 例 2 : B 温泉観光組合	
	代表者役職・氏名	〇〇 〇〇	代表者印
	所在地	〒XXX-XXXX 〇〇県〇〇町X-XX-XX	
連絡担当者	氏名 (ふりがな)	△△ △△	
	所属 (部署名)	〇〇課	
	役職	〇〇担当	
	電話番号 (代表・直通)	XXXX-XX-XXXX	
	F A X 番号	XXXX-XX-XXX0	
	E - m a i l	XX@XX.XX.jp	

※団体概要 (パンフレット等) を添付すること。

新・湯治コンテンツモデル調査 実施計画書

1.新・湯治コンテンツモデル調査の提案内容

テーマ	温泉地 × (リフレッシュ)
実証温泉地名 (所在地) ※未定の場合は 「未定」と記入	未定 (例 1) 温泉 (b 県(例 2) 都道府県) b (例 2)
調査の類型 (いずれか 一つ)	☒ A. 都市部からのモニターツアー型 (例 1) ☐ B. 現地滞在者向け体験プログラム型 (例 2)
実証するコン テンツの概要	【温泉地での新・湯治コンテンツモデル調査の概要】 ※「新・湯治」との関連も意識して記入してください。
	(例 1) モニターツアー型 当会社では、テレワーク制度を導入し、社員の自由な環境での働き方の導入を検討しています。導入に先立ち、本社在勤の社員とのコミュニケーションに支障が出ないか検証が必要と考えています。実証には、社員にとってリフレッシュ効果が期待できる温泉地を活用し、社員のリフレッシュと、温泉地の平日の賑わい創出に貢献したいと考えています。 (例 2) 体験プログラム型 当温泉地は都会の喧噪を離れた、大自然が温泉街のすぐ近くにあることが魅力の一つです。こうした環境は、地域の食を楽しみ、都心から来た人々がリフレッシュする、「新・湯治」のコンセプトに合致した最適な環境です。当温泉地で今後展開予定の「リフレッシュプログラム」を今後展開していきたいと考えており、その実証を行い、体験者の声を元に、プログラムの改良及び今後の温泉地の P Rを行っていききたいと考えています。

※A4 版、一枚までとする。

実証するコンテンツの概要	【ツアー/プログラムの詳細】 ※「新・湯治」との関連や他の温泉地での展開可能性も意識して記入してください。 ※ツアー/プログラムの効果や調査後の展開イメージ、広報・集客の方針についても記入してください。
	(例1) モニターツアー型 ・社内から15名程度、参加社員を募り、温泉地での1泊2日のテレワークを実施します。参加社員は温泉地テレワークとは別の任意の日に自宅でのテレワークも実施してもらう予定です。 ・参加社員には400字程度のレポートの提出を求め、その際、温泉地と自宅のどちらの方で仕事がはかどったかという点を中心に報告をしてもらいます。 ・実証効果が確認できたら、社員に温泉地でテレワークができる仕組みの制度化を検討します。企業が平日に温泉地に訪れることで、温泉地には平日の賑わいが生まれ、社員には温泉地訪問によるリフレッシュ効果が期待できます。 ・温泉地名（了解が得られた場合のみ）も含め、当社ホームページで紹介予定しています。 (例2) 体験プログラム型 ・当温泉地で滞在中、以下の中から2つの体験プログラムを選択して参加いただき、400字程度のレポート提出を依頼します（プログラム参加費（●●円）は参加者負担を想定。先着15人程度。）。レポート内容をもとにプログラムの改良を行い、体験者の声を当観光協会ホームページ等で発信を行い、温泉地のPRに役立てます。 -遊歩道散策（ボランティアガイド付き） -温泉街食べ歩き散策（割引券付きマップ提供による自由散策） -入浴指導員による個別入浴指導 ・実証で効果が確認できたら、プログラムの本格提供を検討します。プログラムを体験した来訪者にはSNS等に投稿してもらい、当地の魅力を発信していただくことを期待しています。 ・当組合ホームページを始め、地域の回覧板にも紹介し、遊歩道散策などは地元住民の健康維持にも活用を促します。また、体験者にはSNS等での発信を促します。

※A4版、一枚までとする。

2. モデル調査の実施体制

申請者の活動状況	【これまでの「新・湯治」に関わる活動状況】 ※申請するコンテンツモデル調査の内容に関して、これまでに関連する取組を行っている場合は、その点も記入してください。
	(例1) モニターツアー型 当社では、複数の温泉地の旅館やホテル等と保養所契約を締結しており、利用したい社員が活用できる環境を整えています。 (例2) 体験プログラム型 「チーム新・湯治」発足当初から加入しています。また、加入前から、今後の温泉地の賑わい作りを旅館組合で話し合いを行っています。
実施体制	(例1) 人事部長 (○△ ○△) (人事担当役員) 人事課長 (○○ ○○) ・人事課担当 (△△ □□) ・人事課担当補佐 (■ ■ ■ ■) ・福利厚生担当 (◇◇ ◇◇) (● ● ● ●)
	(例2) 代表 (○○ ○○) (全体統括) 株式会社 D ・遊歩道ツアー担当 (△△ △△) ※連絡担当 ・散策ツアー担当 (■ ■ ■ ■) ・入浴指導担当 (◇◇ ◇◇) ・広報担当 (● ● ● ●)

※A4 版、一枚までとする。

4.実施スケジュール等

新・湯治コンテンツモデル調査 に関する取組			備考
※公募要領の図表 3 を参考に想定のスケジュールを記入してください。 ※採択後の進め方については、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、モデル調査事務局と協議して実施。</u>			
7～8月 ※月は適宜 まとめること も可能	(例1) モニターツアー型 ・社内関係者会議 (募集部署、募集方法調整) ・モデル調査事務局との打ち合わせ (開始時)	(例2) 体験プログラム型 ・関係者会議 (当組合、株式会社 D、ガイド、食べ歩き協力飲食店、 入浴指導員) ・モデル調査事務局との打ち合わせ (開始時)	※ 開 始 時、中間、 事業終了 前 (必要 に 応 じ て) にモ デル調査 事務局と の打合せ を設定し てくださ い。
9月	・連携温泉地決定 ・連携温泉地・モデル調査事務局と の打ち合わせ (ツアー詳細 (場所、 時期、宿泊等) の相談)	・プログラム別に担当者との打ち合わ せ、詳細プラン (案) 決定 ・派遣外部有識者との打ち合わせ	
10月	・社内関係者会議 (関係部署への ツアー内容の報告。) ・社内募集開始 (1 ヶ月程度) ・モデル調査事務局との打ち合わせ (中間)	・株式会社 D の広報確認 ・プログラム実施開始 ・モデル調査事務局との打ち合わせ (中間)	
11月	・連携温泉地とのメールベースでの 打ち合わせ (随時) ・実証者決定 (例: 15 人) ・モデル調査事務局への定期報告	・プログラム実施 (例: 15 人) ・事務局への定期報告 (必要に応 じ、プログラム内容のアドバイスを求 める)	
12～ 1月	・実証者、所属長との打ち合わせ。 ・実証者派遣開始 (2 月中旬め ど) ・モデル調査事務局への定期報告 (必要に応じて打合せを実施し、今 後に向けたアドバイスを求める)	・(上旬) プログラム終了 ・組合によるレポート結果とりまとめ。 今後の改良点 P R 検討。 ・モデル調査事務局への定期報告 (必要に応じて打合せを実施し、今 後に向けたアドバイスを求める)	
2月	・実証者レポート提出 ・モデル調査事務局への実施報告 書提出	・組合、株式会社 D 実証結果打ち 合わせ ・モデル調査事務局への実施報告 書提出	

※A4、一枚まで。